

# 第五次国有林野施業実施計画書

## (肱川森林計画区)

計画期間 [ 自 平成 30 年 4 月 1 日 ]  
[ 至 平成 35 年 3 月 31 日 ]

四 国 森 林 管 理 局

## 目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域	1
2	施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	1
(1)	伐採造林計画簿	1
(2)	水源涵養 <sup>かん</sup> タイプにおける施業群別面積等	1
(3)	水源涵養 <sup>かん</sup> タイプの施業群別の上限伐採面積	2
(4)	伐採総量	3
(5)	更新総量	4
(6)	保育総量	4
3	林道の整備に関する事項	5
4	治山に関する事項	6
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	7
6	レクリエーションの森の名称及び区域	7
7	公益的機能維持増進協定の名称及び区域	7
8	その他必要な事項	8
(1)	施業指標林、試験地等	8
(2)	フィールドの提供	8
(3)	森林共同施業団地	9
(4)	その他	9

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域別添1「国有林野施業実施計画図」による。

2 施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

(1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別添2「伐採造林計画簿」に示すとおりである。

(2) 水源涵養<sup>かん</sup>タイプにおける施業群別面積等 (単位：ha)

施業群		林地面積	取扱いの内容	伐期齢
施 業 群	スギ分散伐区	547	育成単層林施業 概ね5ha以下	45年
	ヒノキ分散伐区	175	〃 〃	50年
	スギ長伐期	544	〃 〃	90年
	ヒノキ長伐期	1,952	〃 〃	100年
	複層林	103	育成複層林施業 概ね20ha以下	80年
	スギ長伐期複層林	21	〃 〃	130年
	ヒノキ長伐期複層林	20	〃 〃	100年
	択伐	1,156	天然生林施業	定めない
	ぼう芽分散伐区	47	育成単層林施業 概ね5ha以下	15年
施業群設定外		1		
合 計		4,565		

注1：施業群設定外は試験地等である。

注2：単位未満四捨五入により、計と内訳が一致しない場合がある。

(3) 水源涵養<sup>かん</sup>タイプの施業群別の上限伐採面積 (単位：ha)

施業群	上限伐採面積
スギ分散伐区	61
ヒノキ分散伐区	18
スギ長伐期	30
ヒノキ長伐期	98
ぼう芽分散伐区	16
スギ長伐期複層林	2
ヒノキ長伐期複層林	2
複層林	13
択伐	定めない

## (4) 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>)

区 分	林 地					林地 以外	合 計
	主伐	間伐	小計	臨時伐採量	計		
山地災害防止タイプ	—	—	—				
自然維持タイプ	—	—	—				
森林空間利用タイプ	522	77 (1)	599				
快適環境形成タイプ	—	—	—				
水 源 涵 養 タ イ プ	スギ分散伐区	60,763	—	60,763			
	ヒノキ分散伐区	3,676	—	3,676			
	スギ長伐期	—	4,093 (34)	4,093			
	ヒノキ長伐期	—	94,521 (681)	94,521			
	複層林	—	—	—			
	スギ長伐期複層林	5,167	—	5,167			
	ヒノキ長伐期複層林	1,208	—	1,208			
	択伐	—	294 (3)	294			
	ぼう芽分散伐区	—	—	—			
	施業群設定外	—	—	—			
小 計	70,814	98,908 (718)	169,722				
合 計	71,336	98,985 (719)	170,321	10,000	180,321	—	180,321
年 平 均	14,267	19,797 (144)	34,064	2,000	36,064	—	36,064

注1：( ) は、間伐面積である。

注2：単位未満四捨五入により、計と内訳は必ずしも一致しない。

(再掲) 市町村別内訳

(単位：m<sup>3</sup>)

区 分	林 地					林地 以外	合 計
	主伐	間伐	小計	臨時伐採量	計		
西予市	2,217	960	3,177	/	/	/	/
内子町	69,119	98,025	167,114				
計	71,336	98,985	170,321				

注1：臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まない。

## (5) 更新総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ <sup>o</sup>	自然維持 タイプ <sup>o</sup>	森林空間 利用タイプ <sup>o</sup>	快適環境 形成タイプ <sup>o</sup>	水源涵養 タイプ <sup>o</sup>	合 計
人工 造林	単層林造林	—	—	—	—	95	95
	複層林造成	—	—	—	—	14	14
	計	—	—	—	—	109	109
天然 更新	天然下種第1類	—	—	—	—	—	—
	天然下種第2類	—	—	2	—	10	12
	ぼう芽	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	2	—	10	12
合計		—	—	2	—	119	122

注：単位未満四捨五入により、計と内訳は必ずしも一致しない。

## (6) 保育総量

(単位：ha)

区 分		山地災害 防止タイプ <sup>o</sup>	自然維持 タイプ <sup>o</sup>	森林空間 利用タイプ <sup>o</sup>	快適環境 形成タイプ <sup>o</sup>	水源涵養 タイプ <sup>o</sup>	合 計
保 育	下 刈	—	—	—	—	484	484
	つる切	—	—	—	—	4	4
	除 伐	—	—	—	—	30	30

### 3 林道の整備に関する事項

基幹・ その他別	開設・ 改良	路線名	箇所(林班)	延長 (m)	備考
基幹	開設	水無	47	900	
計			1箇所	900	
基幹	改良	小田深山	69~71	200	
		貝渚	49~50	100	
		水無	47~49	100	
		高樽	70、81、83	100	
計			4箇所	500	
その他	改良	雨霧	51	50	
		生草	51、54	100	
		生草・52支線	52、54	50	
		生草・53支線	53、54	100	
		小田深山	71	100	
		小田深山・南岸線	60~64	200	
		貝渚	49	50	
		鬼ヶ臼	56、57、60	100	
		朴の又	59	100	
		長谷山	55	100	
		銭原	69	50	
		丸石山	67~69	150	
		高樽81	81	100	
		大野ヶ原・82支線	82	200	
計			14箇所	1,450	
		開設	1箇所	900	
		改良	18箇所	1,950	

#### 4 治山に関する事項

位 置	区 分	工 種	計 画 量
48、49、50、51、53、54、 59、83	保安林の整備	その他 (森林整備)	87.00ha
		計	87.00ha
[53]、[71]、 [81]、[82]	保全設備	溪間工	4箇所 (23.32ha)
[71]		山腹工	1箇所 (0.20ha)
		計	4箇所 (23.52ha)
計	保安林の整備	その他	87.00ha
		計	87.00ha
	保全施設	溪間工	4箇所
		山腹工	1箇所
		計	4箇所

注1：林班[ ]の区分は、事業評価の地区単位。保全施設の計は、溪間工・山腹工で重複する箇所は1箇所とする

注2：災害復旧等緊急を要する場合には、計画箇所以外においても実行できることとする。

## 5 保護林名称及び区域

種類	名称	新・既	面積 (ha)	位置 (林小班)	特徴等
希少個体群 保存林	おだみやま 小田深山ブナ (遺伝資源)	既設	8.48	69ほ 80に	地域的にまとまって 生育しているブナの 遺伝資源を保護。

注：林木遺伝資源保存林「小田深山ブナ」と「小屋山ブナ」を統合して、希少個体群保存林「小田深山ブナ（遺伝資源）」とした。

## 6 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名称	既設 新設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選定 理由	施業 方法	既存施設 の概要	施設 整備	備考
風景 林	おだみやま 小田深山 溪谷	既設	91.34	55ほ1 65ほ1、ほ2、ほ11 ----- 48ほ、と、り～る 49ほ、へ 55ほ2～と3 56と 65と～り、67ほ 69ほ～ち、70ち	人工林と 天然林の 調和した 森林美と 深山の溪 谷美に優 れている。	育成複層 林施業 ----- 天然性林 施業	1,689m 幅員 2.0m 土道 整地、芝張り 収容台数50台 木造平屋建 410m2	遊歩道 廻り岩園地 駐車場 公衆便所 深山荘建物 標識類	

## 7 公益的機能維持増進協定の名称及び区域

該当なし

## 8 その他必要な事項

### (1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
施業 指標 林	複層林	昭和47年	4.14	65ぬ1	スギ、ヒノキを上木とする複層林人工更新が可能な林内の光条件を明らかにすると共に、複層林更新によって期待される地力維持効果、下刈の省力効果等を明らかにする。
	複層林	平成6年	3.80	52は5	林業生産におけるコストダウンを図るため、成林したヒノキ人工林を帯状伐採し、天然下種更新により複層林を造成する施業を、事業レベルの試験林として導入する。
	成木適伐	昭和57年	3.63	58と2, よ4	成木適伐技術の確立
次代 検 定 林	スギ人工林	昭和48年	1.34	52へ1, へ2	林木育種事業により育成された精英樹系統種苗の遺伝的特性を検討すると共に、当該種苗の地域環境に対する適応性を明らかにして、その実用化と育種事業の効率化を図る。
		昭和50年	1.10	54り1	
展 示 林	スギ人工林	昭和54年	1.56	48ち	優良人工造林地

### (2) フィールドの提供

対象地 (林小班)	設定の目的	備考
2.10ha (55い1)	<small>おだみやま</small> 「小田深山ふれあいの森」 (ボランティア団体による自主 的な森林整備の場の提供)	平成23年11月 内子町長と協定 締結

(3) 森林共同施業団地

該当なし

(4) その他

レクリエーションの森以外森林空間利用タイプの施業方法

位 置 (林小班)	面積 (ha)	施業方法
47る3, 50い1, 51い3, ろ, へ2, ぬ2, 52り, 56ろ1, は7, 57は, 58わへよ5, 59と, 60ろ1, ろ2, 61へ, る, 63は2, 64い, ろ	94.54	育成複層林施業
47り1, り2, 48ち, 49か, よ1, 51へ1, と, ぬ5, 56い2, ろ2, へ, 60い4, い5, ろ3, は1, 61ほ, わ, か, 62い1, い5, ろ, に1, 64に, 69ろ, に, た, 70ぬ	85.92	天然生林施業